

令和5年度 江戸川区立西葛西小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	○考える子 ○心豊かな子(重点目標) ○たくましい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○児童が明るく元気に学び合える学校 ○地域に開かれ、保護者、地域から信頼される学校	○保護者が安心して子供を任せられる安全な学校 ○教職員が笑顔で共育・協働し、自分の力を発揮できる学校
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果>算数での習熟度別少人数授業、放課後補習教室、一人一台タブレット端末の活用等で、「学習することが楽しい」と答える児童が85%を超えた。感染症対策を講じながら、「わくわくすもう大会」など学校の特色である行事の再開や、「わくわくタイム」など体力維持向上に向けた教育活動を実施することができた。</p> <p><課題>新学習指導要領で示された3つの資質・能力の育成に向けた授業改善。学校関係者アンケートやホームページの充実による、自校の取り組みの積極的な発信。</p>			

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対するの学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・朝学習(東京ベージックドリルの実施含む)、放課後補習教室を年70回以上実施 ・3～6年生の習熟度別少人数算数授業の実施 ・一人一台タブレット端末を活用した授業の1日1回以上の実施 ・江戸川っ子study week!の学期1回の実施 ・全学年で授業研究・公開・協議会の実施	・東京ベージックドリルで80%以上の児童が、正答率80%以上達成 ・児童アンケート「学習することが楽しい」85%以上	A	A	A	ICTの活用が進んでいて児童も意欲的に取り組んでいるのではないかと、保護者も機能などをもっと知りたい。	・学校では年間3回教員対象にICT研修を実施 タブレット活用の研修を計画的に行っていく
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・全クラス学期3回以上の図書館活用 ・読書科研修の充実 ・学校司書の活用 ・学校図書館の環境整備 ・国語科の校内研究と関連させた読書活動の充実	・全クラス国語科、読書科、社会科、総合的な学習の時間等で年間10時間以上の調べ学習実施 ・児童アンケート「進んで読書をする」80%以上	B	B	B	・保護者も読書をするようPTAや地域としても促していきたい。新聞を定期購読していない家庭も多い。	・学校では、週2、3回の朝読書の時間を設定しているため、読書に取り組んでいる様子が伺える。今年度は保護者による本の読み聞かせも復活したので、家庭の協力を仰ぎながら読書への啓発活動に努めていく。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・わくわくタイム(中休みを使った運動遊び)を年18回実施 ・短なわ週間、持久走週間を年1回実施 ・晴れた中休みは外遊び実施 ・運動を得意としない児童への十分な配慮 ・特色ある教育施設である土俵を活用したわくわくすもう教室やわくわくすもう大会の実施	・児童アンケート「外遊びをよくしている」80%以上 ・体力テスト合計点各学年で1項目以上前年度比増	A	A	A	・体力は社会人になっても必要である。ある程度練習すれば、児童は上達するので、練習の機会を今後も多く設定してほしい。 ・過去には、親子キャッチボールも実施していた。 ・体力と学力は関連している。本校は学区が狭く通学時間も短い。勉強も大切だが体力をつけることも大切。身に付けたものを発揮できる大人になってほしい。	・本校の体力テストの結果は、東京都の平均より若干下である。2学期以降の運動会、短なわチャレンジ、長なわチャレンジ、持久走などの取り組みを通して、今後も運動に親しみ機会を意図的に設定していく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・学校2020レガシーの設定 ・特別な支援が必要な児童への学校生活支援シート、個別指導計画の作成 ・特別支援教育の研修を学期1回実施 ・校内委員会を月1回実施 ・毎時間のエンカレッジルーム担当教員の設定	・出前授業を各学年年間3回以上実施 ・地域の保育所、幼稚園等との交流を1回以上実施 ・児童アンケート「友達を大切にしている」90%以上	B	B	B	・「仲のいい」友達は大切にしているのではと感じる。全ての友達を大切にできるようになるとよい。	・道徳や学級活動の時間を活用し、様々な思いをもった人間が集まって学級を形成していることを理解できるようにしていく。 ・一人一人の個性やよさが認められ、それを発揮できる学級づくりを目指す。 ・経験年数が浅い教員への指導やフォローを継続的に、円滑な学級経営が行えるようにしていく。 ・2学期も出前授業の実施を計画中である。教育のねらいに適したものを選び、児童の理解を深めるために活用していく。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hypoer-QUの活用	・江戸川区子どもの権利条例の理解、教科内指導 ・生活指導連絡協議会の実施 ・キャリアパスポートの活用 ・いじめアンケートを年間3回実施 ・いじめ防止対策委員会の定期的開催 ・異年齢交流の場として月1回のたてわり班活動の実施	・Hyper-QUによる学級満足度要支援群の出現率10%以下 ・不登校児童の関係諸機関との連携100% ・いじめの早期発見、解消率100%	A	A	A	・授業で起きていることは共有されているが、すすくや学童内のことは共有されているのか。 ・子供を取り巻く様々な状況があるが、まずは家庭の教育力を上げていくことが大切。親子でのかわりを大切にしてほしい。	・学童は学校の教育課程外のことであるので、学童内のトラブルは学童で処理しているが、すすくとの先生と情報共有することはありうる。 ・不登校児童の関係諸機関との連携を今後も継続していく。不登校児童本人の特性に合った居場所づくりをすすく、学校サポート教室や共有プラザ、エンカレッジルームへの登校などを促す。 ・Hyper-QUの分析結果を2学期以降の学級経営・児童理解に活用していく。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・学校ホームページの週3回以上の更新 ・学校公開の充実	・学校公開への参加率90%以上 ・保護者アンケート「教育活動の公開度」80%以上	A	A	A	・「すもう大会及び学校公開を実施できてよかった。学校応援団による果箱作りは親子連れでにぎわっていた。	・5月の公開は3時間の設定にしたことで、保護者が参観授業を選択・調整できたこと肯定的なアンケート結果だった。2学期以降の学校公開も同様に実施する予定である。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・全校統一された重点項目による評価実施 ・評価分析結果の公表	・学校関係者評価にてA評価を80%以上 ・保護者アンケートにて全項目の平均で肯定的な意見80%以上	B	B	B	・保護者評価は一部分しか見えていないこともあるので、あまり気にしなくてよいと考える。 ・評価者アンケートをHPで公開し、保護者への周知を図る。 ・個別応じた取り組みを、学校公開での授業で発信していく。	・学校評価で肯定的な評価が高かったものについては、現状を維持できるよう今後も推進していく。 ・評価者アンケートをHPで公開し、保護者への周知を図る。 ・個別応じた取り組みを、学校公開での授業で発信していく。
特色ある教育の展開	<学校における働き方改革> 「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・学校経営支援を担う人材の導入 ・校務の精選と見直し継続的実施 ・定時退勤の実施	・学校評価(教職員)での働き方改革推進に関する項目のA評価70%以上	B	B	B	・学校によって校風が違う。先生たちの働き方にも差がある。維持して持ち上げていくためには、先生方の努力が必要。	・tetoruでの配信による印刷業務の削減、teamsでの連絡事項配信、Formsによるアンケート集計等、今度もICTの活用を行い働き方改革を推進していく。